

建設業の単身赴任

理事 佐藤忠宏

泊村、苫小牧市、帯広市、夕張市、滝川市、芦別市（北海道）、阿賀町（新潟県）。これまで、私が社会に出てから仕事場として滞在した町である。建設業を生業とする会社に所属するのであるから全国各地を転々とするのは望むところではある。しかしながら、若いころは家族共々転居を繰り返せばよいが、子供が成長するにつれて、そうもいかず、そのうち単身赴任生活となる。大体、もともと社会インフラが乏しい地域のための仕事であるので、赴くのは間違いなく（ド）が付く田舎である。事務所兼宿舍を自前で建設して仕事に就く。因果な商売ではあるが、何とも魅力的でもある。仕事は基本的に長丁場でダイナミック、自然を相手とすることから、時としてとんでもないことが起こったりする。そして何ととってもその記憶はその土地の地理、歴史や文化と一緒にあって強烈に頭に刻み込まれるのである。

越後街道は、江戸時代の会津若松と越後新発田を結ぶ重要な交通路であり、上り荷で塩や綿を福島方に運び、下り荷で米や材木、煙草を新潟方に運んでいたそうである。当時、安価な船運が発展し、津川(矢印)が河港都市として栄えている。国内でも最大級の流域面積を誇る阿賀野川沿いの町である。新潟から津川までは船運、津川から会津若松までは陸運の道中である。現在、このルートは国道 49 号線、高速磐越道、そして J R 磐越西線となっている。

私が現在赴いているのは津川町の下流約 10km に位置する三川（村）というところ。ここで、阿賀野川を渡河する橋梁を建設している。完成すればクネクネ国道が快適なハイウェイとなるだろう。昨年の夏、記録的な豪雨で阿賀野川が氾濫決壊し、大変なダメージを受けた。3 年の単身赴任がもう 1 年伸びた所以である。やはりとんでもないことが起こったのである。

